

ゴボウ (露地) (黒ボク土)

〔土壤肥料〕

本作目は、栄養生長から生殖生長に不完全ではあるが転換する型である。窒素の吸収パターンは山型を示し、収穫後の土壤中残存養分は比較的強く制御できる。直根が深く入るため耐干性は強いが、停滞水や冠水などに対する根の耐水性は弱い。また、岐根とならないためには下層土まで膨潤な土壌が適している。アク成分は土壌中の肥料や水分の過不足の変化が激しい時に増えると言われている。リン酸、カリについては、根部の肥大期に要求量が多く、この時期に肥料切れしない管理が必要である。

〔病害虫・雑草防除〕

輪作等で連作は避ける。害虫の被害を防ぐため生育初期に防虫ネットによるトンネルなどの被覆で物理的遮断を行う。フェロモントラップにより害虫の侵入や発生を予察し、早期防除を図り、化学農薬の使用を削減する。

区分	持続性の高い農業生産方式の内容	使用の目安
有機質資材施用技術	土壌診断に基づいた低成分含量堆肥(稲わら堆肥及び落葉堆肥等で、窒素、カリ含量が1%以下の完熟したもの)の施用を基本とする。 肥料成分含量の高い畜産系堆肥の施用にあたっては長期的な視点にたった投入量管理を行う。 緑肥作物を利用する。	堆肥(年間) 2~3t/10a
化学肥料低減技術	基肥は局所施肥(条施肥など)する。 肥効調節型肥料と速効性肥料とを組み合わせ、養分吸収特性に対応した施肥成分の供給を行う。 有機質肥料による施肥を行う。	成分量で慣行施肥量の20%減 有機質肥料併用の場合には化学肥料低減率20~50%
化学農薬低減技術	機械除草を行う。 対抗植物(マリーゴールド、エンバク等)を利用する。 (対象:ネグサレセンチュウなど) 生育前半に不織布や防虫ネットによる被覆を行う。 (対象:アブラムシ類など) 性フェロモン剤による発生予察・誘殺を行う。 (対象:ハスモンヨトウ)	慣行使用回数の20%減
その他の留意事項	未熟な有機物の施用は、岐根発生の原因となる。前作に有機物資材を十分に施用しておくか、少なくとも播種1ヶ月前までに完熟堆肥を施用しておく。 水田転作など灰色低地土で栽培する場合には、作土深の確保を図ると共に、優良有機物資材施用を基本し、溶脱防止に留意したきめ細かな施肥法をとる必要がある。 盛土などが行われている圃場では、その客入土壌の改良を行う。	